

病害虫情報(第4号)7月予報

令和7年6月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 7月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、イチゴ、抑制トマト、スイカ、カボチャ、メロン】
II 7月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 12

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
○ 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和7年6月26日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 7月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水 稲】

生育:並(生産技術部:はるみ)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
いもち病 (葉いもち)	やや少	△	(予) オリゼメート粒剤 [初発10日前～初発時,14日,2回] 3～4kg/10a (予・治) オリブライト250G [出穂10日前まで,45日,1回] 250g/10a (予・治) コラトップ粒剤5 [初発10日前～初発時,2回] 3～4kg/10a 等 ❖ 発生を認めたら直ちに防除する。山間、谷戸田等常発地では発生に注意する。
ヒメビウンカ (縞葉枯病)	やや多 (やや多)	△	アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a トレボン粒剤 [21日,3回] 2～3kg/10a 等 ❖ ヒメビウンカは、縞葉枯病を媒介する。
セジロウンカ	並	△	❖ 5月上中旬植えの水稲では、ヒメビウンカの発生状況に応じて追加防除を行う。
トビイロウンカ	—	△	❖ 5月下旬以降植えの水稲で箱施薬を行った場合には、この時期の防除は不要だが、ヒメビウンカの今後の発生状況に注意する。
ツマグロヨコバイ	並	△	❖ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を令和7年4月4日に発表している。
イネツトムシ	—	○	パダン粒剤4 [30日,6回] 3～4kg/10a スミチオン乳剤 [21日,2回] 1,000倍 等 ❖ 6月24日時点で第2世代の予測孵化最盛日は平年よりやや早い。
斑点米カメムシ類	—	—	❖ 畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。 ❖ 水田への飛来を防ぐため、出穂10日前頃から周辺除草を控える。
スクミリンゴガイ	—	△	スクミリンベイト3 [発生時,ー] 2～8kg/10a 等 ❖ 卵塊・貝を見つけた場合は潰して捕殺する。 ❖ 取水口にネットや金網(目合い9mm程度)を設置する。 ❖ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(農業技術センター)
ナガエツルノゲイトウ	—	△	❖ 発生している地域では水口にネット等を設置し、侵入を防止する。 ❖ 特定外来生物に指定されているため、疑わしい雑草を見つけた場合は、最寄りの農協または普及指導部まで連絡する。 ❖ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を！(農業技術センター)

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育: やや早 (足柄地区事務所根府川分室: 普通温州)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
黒点病	やや少	○	(予) ジマンダイセン水和剤 みかん: [30日, 4回] 400～800倍 みかんを除くかんきつ: [90日, 4回] 600～800倍 (予) ペンコゼブ水和剤 みかん: [30日, 4回] 400～800倍 みかんを除くかんきつ: [90日, 4回] 600～800倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 ❖ 前回散布後250mm以上の降雨があれば、薬剤散布を行う。 等
かいよう病 (中晩柑類)	やや少	○	(予) コサイド3000 [生育期, -] 2,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 等 ❖ 風傷やミカンハモグリガの食害痕が病原菌の侵入口になる。
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] 3,000倍 等 ❖ 隣接する防風垣や茶樹が発生源になりやすい。
ミカンハダニ	並	○	メビウスフロアブル みかん: [7日, 2回] 2,000～3,000倍 みかんを除くかんきつ: [14日, 2回] 2,000～3,000倍 等 ☞ メビウスは混合剤。総使用回数に注意する。
ミカンサビダニ	-	○	❖ ミカンハダニは2葉に1頭程度に増えたら防除する。
ミカンナガタマムシ	-	△	エクシレルSE [前日, 3回] 5,000倍 アクセルフロアブル [7日, 3回] 1,000～2,000倍 等 ❖ 詳細は令和7年4月16日発表の「病害虫情報 号外 第3号」を参照する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナ シ】 生育: やや早 (生産技術部果樹花き研究課: 豊水)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
黒星病	やや少	○	(予・治) ミギワ20フロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ナリアWDG [前日, 3回] 2,000倍 ☞ ナリアは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ストロビードライフフロアブル [前日, 3回] 3,000倍 等
シンクイムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍
カメムシ類	多	△	ロディー水和剤 [前日, 2回] カメムシ類: 1,000倍 シンクイムシ類: 1,000～1,500倍 等 ❖ カメムシ類、ナシヒメシンクイの発生状況は、ホームページの最新情報を参考にする。
ハダニ類	並	○	ダニゲッターフロアブル [前日, 1回] 2,000倍 ダニコングフロアブル [前日, 1回] 2,000倍 等 ❖ 梅雨明け後に防除する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

【ブドウ(大粒種)】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) ランマンフロアブル [14日,3回] 1,000～2,000倍 (予) イデクリーン水和剤 [ー,ー] 800倍 (予) Zボルドー [ー,ー] 500～800倍 + クレフノン [ー,ー] 100倍 等
黒とう病	並	○	(予) イデクリーン水和剤 [ー,ー] 黒とう病:500倍,晩腐病:400～800倍
晩腐病	ー	○	(予・治) オーシャインフロアブル [7日,2回] 黒とう病:2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	並	○	ディアナWDG [前日,2回] アザミウマ類:5,000～10,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カキ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
うどんこ病	ー	○	(予・治) ストロビードライフフロアブル [14日,3回] 3,000倍 等
カキノヘタムシガ	ー	○	スミチオン水和剤40 [30日,3回] カキノヘタムシガ:800～1,200倍 カメムシ類:800～1,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍
カメムシ類	多	△	テルスターフロアブル [3日,2回] カキノヘタムシガ:3,000倍 カメムシ類:3,000～6,000倍 等 ❖ カキノヘタムシガの平年における防除適期は8月上旬である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

【チャ】 生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
輪斑病・ 新梢枯死症	並	○	【夏整枝・浅刈り更新直後】 (予) ダコニール1000 [10日,1回] 700～1,000倍 (予・治) カスミンボルドー又はカッパーシン水和剤 [14日,2回] 輪斑病:500～1,000倍, 新梢枯死症:1,000倍 等 ☞ カスミンボルドー及びカッパーシンは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 輪斑病は摘採や整枝のときにできた傷口から感染するため、薬剤散布のタイミングは摘採や整枝後、早ければ早いほど効果的である。
チャノミドリヒメ ヨコバイ	やや多	○	【夏整枝・浅刈り更新の2週間ほど後】 コルト顆粒水和剤 [7日,2回] 2,000～3,000倍 コテツフロアブル [7日,2回] 2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	
チャトゲコナジラミ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
うどんこ病	－	○	(予)ダコニール1000 [前日,4回] 1,000倍 (予・治)アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000～4,000倍 (予・治)パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (治)サンクリスタル乳剤 [前日,－] 300～600倍 (治)ベミデタッチ [前日,－] 500倍等 ❖多発してからでは防除が困難になるため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。										
疫病	－	○	(予)ダコニール1000 [前日,4回] 1,000倍 (予・治)リドミルゴールドMZ [前日,2回] 1,000倍等 ☞リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖多発してからでは防除が困難になるため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。										
アブラムシ類	やや少	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍										
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ	並	○	アニキ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:1,000～2,000倍										
タバコ コナジラミ	やや多	○	マッチ乳剤 [前日,4回] コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:1,000～2,000倍										
アザミウマ類	並	○	ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、 コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,－] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,－] コナジラミ類:500倍等 ☞ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ❖ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(トマトモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td rowspan="2">アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td></tr></table> ❖ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													
オオタバコガ	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] 2,500～5,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 アクセルフロアブル [前日,3回] 1,000～2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] 2,000～3,000倍等 ❖極端に着色の早い果実には、幼虫が食入している可能性があるのでよく確認し捕殺する。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント									
べと病	やや少	○	(予・治) ベトファイター顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～3,000倍 ☞ ベトファイターは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000～4,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 ❖ 肥料切れや成り込みによる草勢低下は、発生を助長させる。									
うどんこ病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍									
アブラムシ類	やや少	○	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、アザミウマ類:2,000～4,000倍、 コナジラミ類:2,000倍									
コナジラミ類	やや少	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍									
オンシツ コナジラミ	やや少	○										
タバコ コナジラミ	多	○										
アザミウマ類	並	○	❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。									
ミナミキイロ アザミウマ	やや多	○	<table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(キュウリモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>BPYV(キュウリ黄化病)</td></tr><tr><td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr></table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											
ミカンキイロ アザミウマ			❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 栽培終了後の作物が、ウイルス病の感染源とならないよう速やかに片付ける。									

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

【ナ ス】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使用 する 薬 剤 例 ❖防除のポイント
うどんこ病	やや多	○	(予・治) アミスターオブティフロアブル [前日,4回] 1,000倍 ☞ アミスターオブティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,ー] 300～600倍 等
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	やや少 やや多	○ ○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] 2,000倍 等
オオタバコガ	やや多	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 アクセルフロアブル [前日,3回] 1,000～2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍
チャノホコリダニ	やや多	○	サンクリスタル乳剤 [前日,ー] 300～600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネ ギ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使用 する 薬 剤 例 ❖防除のポイント
さび病	少	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [14日,3回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予・治) ストロビーフロアブル [7日,3回] 2,000倍 等
ネギアザミウマ	並	○	【生育期:散布】 モスピラン顆粒水溶剤[7日,3回] アザミウマ類:2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500～5,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍、シロイチモジヨトウ:1,000～1,500倍 等 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
シロイチモジヨトウ	ー	△	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

【イチゴ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
炭疽病	—	○	【育苗期】 (予) ジマンダイセン水和剤 [仮植栽培期(但し収穫76日前),6回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [仮植栽培期(但し収穫76日前),6回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期,6回] 500倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前),5回] 1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前,3回] 1,000倍 等 ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布 間隔を4～7日間隔程度に短縮する。 ❖ 発病した株への治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株 は速やかに処分する。
うどんこ病	—	○	【育苗期】 (予) サンヨール [前日,6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日,—] 800～1,000倍 (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [収穫開始14日前,3回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前),5回] 1,000倍 等 ❖ 育苗期からの防除が重要である。 ❖ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが 病原菌は残存している。 ❖ 本ぼに発病株を持ち込まないように、壊死斑も含めて発病葉をできるか ぎり除去し、防除を徹底する。 ❖ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布 間隔を4～7日間隔程度に短縮する。
ハダニ類	—	○	【育苗期】 コロマイト水和剤 [前日,2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,—] 300～600倍 エコピタ液剤 [前日,—] 100倍 等 ❖ サンクリスタルなどの気門封鎖剤は、ハダニ類が多発している場合、3 日程度の間隔で複数回散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ タバコ コナジラミ	やや少 多	○ ○	【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1～2g/株 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類:1～2g/株 【育苗期:散布】 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類:4,000倍 マッチ乳剤[前日,4回] コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤[前日,ー] コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,ー] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。										
アザミウマ類	並	○	❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(トマトモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td rowspan="2">アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼ 三 浦 半 島 地 区 野 菜 ▼

【 スイカ 】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
つる枯病	やや多	○	(予) アントラコール顆粒水和剤 [前日, 4回] つる枯病、炭疽病: 400～600倍
炭疽病	並	○	(予) ベルクート水和剤 [前日, 4回] 1,000倍 (治) パレード20フロアブル [前日, 3回]
うどんこ病	並	○	つる枯病、うどんこ病: 2,000～4,000倍 (予・治) ハチハチフロアブル [前日, 2回] うどんこ病: 1,000倍 等 ❖ つる枯病、炭疽病は降雨による土砂のはねかえりは感染、発病の原因となる。
アブラムシ類	多	○	バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍
アザミウマ類	並	○	チェス顆粒水和剤 [3日, 4回] アブラムシ類: 5,000倍 モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 ハチハチフロアブル [前日, 2回] アブラムシ類: 1,000～2,000倍、アザミウマ類: 1,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	ダニサラバフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 ダニオーテフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【 カボチャ 】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
疫病	—	○	(予・治) フォリオゴールド [7日, 3回] 疫病: 1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	やや多	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [7日, 3回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] うどんこ病: 2,000倍 等 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

▼ 三 浦 半 島 地 区 野 菜 ▼

【メロン】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) ベルコート水和剤 [前日, 5回] うどんこ病、つる枯病: 1,000倍 (予・治) フォリオゴールド [3日, 3回]
つる枯病	やや多	○	うどんこ病、つる枯病: 800倍、べと病: 800～1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) パレード20フロアブル [前日, 3回]
べと病	—	○	うどんこ病、つる枯病: 2,000～4,000倍 等 ❖ つる枯病は、多湿条件で発生しやすい。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第4号・7月) ・・・ 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 7月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 7月の気象予報(気象庁 6月24日発表3か月予報)

〈天 気〉

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	30%	60%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	20%	30%	50%

*6月19日発表1か月予報による。

(2) 7月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予 報 の 根 拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 (葉いもち)	少	やや少	1) アメダスデータを元に計算した葉いもち病感染好適日の出現は、5月1日から6月24日の期間中、1.4日で平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年より多い予報。(－)
	ヒメビウンカ (縞葉枯病)	少	やや多 (やや多)	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 予察灯への誘殺は平年並。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、平年より高い。(＋) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	セジロウンカ	少	並	1) 予察灯への誘殺は平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺数は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
カンキツ	黒点病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	そうか病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年よりやや多く(＋)、慣行防除区で発生が平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)の黄色粘着板による調査では、誘殺が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	やや少	1) 巡回調査では、徒長枝での発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、短果枝での発生は平年より少ない。(－) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、徒長枝での発生は平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ナシヒメシクイ	－	やや多	1) フェロモントラップへの第1世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)では平年並(±)、伊勢原、藤沢では平年より多い(＋)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ブドウ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	黒とう病	－	並	1) 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	－	並	1) 巡回調査では、被害は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
果樹全般	カメムシ類	－	多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原で平年並(±)、南足柄と県予察ほ(根府川)で平年より多い(＋)。 2) 予察灯への誘殺数は、伊勢原、山北、県予察ほ(上吉沢、根府川)でいずれも平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
チャ	輪斑病 新梢枯死症	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より多い。(＋) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、落下虫数が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	並 やや多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年より少なく(－)、タバココナジラミの発生が平年よりやや多い(＋)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地 キュウリ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや少なく(－)、タバココナジラミの発生が平年より多い(＋)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 やや多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生は平年並(±)、ミカンキイロアザミウマの発生は平年よりやや少ない(－)。 2) 青色粘着板への誘殺数は、ミナミキイロアザミウマは平年より少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナス	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	やや少 やや多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生は平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマの発生は平年並(±)。 2) 青色粘着板への誘殺数は、ミナミキイロアザミウマは平年より少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホコリダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ネギ	さび病	少	少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(－)
	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
抑制トマト	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	－ －	やや少 多	1) 露地トマトの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年より少なく(－)、タバココナジラミの発生が平年よりやや多い(＋)。 2) 露地キュウリの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年よりやや少なく(－)、タバココナジラミの発生は平年より多い(＋)。 3) ナスの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年よりやや少なく(－)、タバココナジラミの発生は平年より多い(＋)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	－	並	1) 露地トマトの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地野菜 全般	ハスモンヨトウ (三浦半島地区)	－	並 (並)	1) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原では平年並(±)、横浜では平年よりやや少なく(－)、三浦では平年より多い(+) 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は上吉沢、三浦ともに平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オオタバコガ (三浦半島地区)	－	やや多 (並)	1) 巡回調査では、露地トマト、ナスともに発生が平年よりやや多い。(＋) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、横浜では平年並(±)、三浦では平年よりやや少ない(－) 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年よりやや少ない(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

三浦半島地区野菜

病害虫名	(作物名)	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少 少	やや多 やや多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年より多く(＋)、メロンでは発生が平年よりやや多い(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
うどんこ病	(スイカ) (メロン) (カボチャ)	少 少 少	並 並 やや多	1) 巡回調査では、スイカで発生が平年並(±)、メロンで発生が平年並(±)、カボチャでは平年より多い(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
アブラムシ類	(スイカ)	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
アザミウマ類	(スイカ)	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ハダニ類	(スイカ)	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナシ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ナリア、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(インダー、スコア、アンビル)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作3回

★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ホライズン)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー、カナメ)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(オーシャイン、オンリーワン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回